

◇ 低学年部の研究 ◇

1 学年部研究主題

楽しく音楽にかかわり、喜んで活動する児童をめざして

2 学年部研究主題設定の理由

低学年の児童は、友達と一緒に遊ぶ児童も次第に増えてはいるが、まだ一人遊びをしている児童も多い。このような自己を中心とする発達段階にある中では、誰かに認められたり、励まされたりすることに大きな喜びを感じる。低学年の児童は、このような体験を毎日繰り返しながら、成功感・成就感を体験し、仲間意識や帰属感が育ち、集団生活になじみ、集団における自分の存在に徐々に気づいていく段階である。

本校における低学年音楽活動の特徴は、「上学年のきれいな歌声」を聴いてその声にあこがれをもち、自分でイメージしながら、「自然で無理のない歌声」に近づいていくことにある。入学当初の児童はただ音楽が好きで、自分の思い思いの声で元気にさわやかに歌っている。その児童が、様々な音楽活動の体験を繰り返しながら、自分の良いところや得意としていることを認め、認められることによって、自分自身のより深い興味関心に気付いていく。これが本校の低学年の児童の最大の特色である。

音楽の学習においては、軽快でリズム感のある曲を好み、音楽が流れると思いを思い通りに体を揺り動かしながら歌ったり楽器を演奏したり聴いたりしている。また、朝から恒常的に音楽が流れているので、音に対する感受性やセンスが自然に身に付いているので、歌唱や器楽の指導ではちょっとした注意やアドバイスで、良い演奏になっていく。例えば、「歌声の発声はミッキーマウスの声で」とか「表情は歌のお姉さんのように」とアドバイスするだけで、児童はお互いに自分の声や顔を見せ合いながら、喜んで楽しく音楽活動に参加する。

そこで、低学年部では、児童一人一人の「音楽との出会い」「認め認められる場面」を大切に、音楽表現の楽しさに気づかせながら基礎的な能力を身に付ける音楽活動を展開していくために、学年部主題を「楽しく音楽にかかわり、喜んで活動する児童をめざして」と設定した。

3 学年部研究主題のおさえ方

ニコニコ輝く	キラキラ輝く	いきいき輝く
楽しくかかわり、表現の楽しさに気づき、音楽を聴く能力が育っている姿	進んでかかわり、表現の楽しさを感じ取り、音楽を聴く能力が伸びている姿	創造的にかかわり、表現の楽しさを味わいながら感じ取り、聴く能力を高めている姿

4 研究の視点

- (1) 思いをもって歌ったり演奏したりしながら、楽しく音楽にかかわるための指導の工夫
- (2) 身の回りの音の面白さに気づき、思いをもって簡単な音楽をつくるための指導の工夫
- (3) 楽曲を聴いて、想像したことや感じたことを言葉や音楽に合った身ぶりで表現するための指導の工夫

5 公開授業の見どころと視点とのかかわり

○本授業における視点とのかかわりは(2)である。

- ・児童の音遊びの時間を十分に保証するために、指導計画上「まねっこ遊び」「リレー遊び」の1時間扱いを2時間扱いに組み替えたこと。
- ・「まねっこ遊び」などのスモールステップを取り入れることによって、本時の音遊び(「リレー遊び」)にスムーズに入れるように工夫した。
- ・「まねっこ遊び」や「リレー遊び」を教師と児童、児童同士、号車(班)ごと、列ごとなどいろいろなパターンで行うことで楽しく取り組めるように工夫した。

6 低学年部会授業の指導案

第1学年音楽科学習指導案

授業者 1年2組 塩谷 夏菜

1 題材名 いい おとを みつけて あそぼう

2 題材のねらい

- 音や響きの違いに気付いたり、音の出し方を工夫したりして、音に関心をもつようにする。
- 階名で模唱や暗唱をしたり、これをもとに楽器で演奏したりすることができるようにする。

3 題材について

(1) 指導要領との関連

A表現	(1) 歌唱 指導事項 アイ	(2) 器楽 指導事項 アウ
	(3) 音楽づくり ア	
B鑑賞	(1) 指導事項 イウ	
【共通事項】ア (ア) 音色, リズム, 旋律, 強弱		
(イ) 反復, 問いと答え		

(2) 題材観

本題材は、鍵盤ハーモニカの基本的な奏法を覚え、きれいな音を意識しながら音遊びや簡単な旋律の演奏ができるようにすることをねらいとしている。

児童は、友達と声を合わせて歌ったり、歌に合わせて身体表現をしたりする学習や簡単なリズム遊びを通してリズムに対する感覚の定着を図る学習を行ってきた。

本題材では、これまでの学習に加え、旋律の動きと楽器の音色に焦点を当てた学習を進めていく。旋律の動きを捉えさせるために、ド～ソの5音から構成された簡単な楽曲を用いて階名による模唱や暗唱を取り入れ、楽器での演奏につなげていくのに適している。今回から旋律を表現するための楽器として、新たに鍵盤ハーモニカを扱い、楽器の持ち方などの基本的な奏法を覚え、ド～ソの5音を使った簡単な旋律の演奏を経験する活動を行う。児童は、初めて触れる鍵盤ハーモニカでの表現を楽しみながら旋律の演奏に慣れることができる。また、いろいろな楽器の音を聴く活動や音遊びを通して、音に耳を傾けながらその音を味わうことは、「きれいな音による表現」を目指そうという意識にもつながる。音に関心をもって鍵盤ハーモニカを演奏したり、歌ったりしようという態度を育てるのにも適した題材である。

(3) 児童観

男子21名、女子13名、計34名の明るく活発な児童が多いクラスである。

音楽が好きな児童が多く、音楽の時間には、身体を動かしながら歌ったり、リズム遊びをしたりと意欲的に取り組む姿が見られる。また、音楽集会では様々な曲を楽しんで演奏している。

歌唱については、授業で「ミッキーマウスの声」を真似したり、発声練習をしたりする活動を取り入れてきた。入学当初は、楽しく大きな声で歌っている児童が多かったが、合唱団や上学年の歌声に憧れを持っているため、どの活動にも意欲的に取り組んでおり、無理のない発声で歌おうとする児童が増えてきている。

楽器については、幼稚園や保育園などでカスタネットなどの打楽器に触れた経験がある児童が多い。中には、鍵盤ハーモニカやピアノなど鍵盤楽器に触れている児

童もいる。授業では、身体を楽器にしてリズム遊びを行ってきたが、拍の流れに乗れない児童も見られる。

(3) 指導観

本題材では、旋律を表現するための楽器として鍵盤ハーモニカの演奏に取り組む。楽器の持ち方や音の出し方など基本的な奏法を身に付けさせるとともに、簡単な曲の中で指の体操や1音ずつの演奏を取り入れ、鍵盤ハーモニカに親しませながら技能の定着を図っていききたい。また、様々な音の出し方を経験させ、音の高低や強弱、音色や音の響きに関心をもたせ、きれいな音色で演奏しようという態度を育てていきたい。絵譜を用いて視覚的に音の高低を感じ取らせたり、指導者と児童で短い旋律を階名唱でまねっこをしたりして、なるべく多くの場面で階名に触れさせておき、階名で模唱や暗唱ができるようにし、鍵盤ハーモニカを演奏する際、音に集中して活動できるようにさせたい。

本時では、リズムや旋律を模倣する「まねっこ遊び」や音遊びを通して、鍵盤ハーモニカを演奏する楽しさを味わわせ、今後の演奏につなげていきたい。また、本時で鍵盤ハーモニカの演奏に楽しんで取り組もうという意欲を持たせたまま「おちば」での鍵盤ハーモニカの旋律の演奏に取り組ませたいので、「おちば」の指導は、階名唱→鍵盤ハーモニカでの演奏→様子を思い浮かべながらの歌詞唱という流れにすることにした。

4 教材について

(1) どんぐりさんのおうち (久野静夫 作詞/市川都志春 作曲)

鍵盤ハーモニカやオルガンなどの鍵盤の上に、歌詞をヒントにドとソの位置を見つけ、演奏できるようにするために作られた鍵盤楽器の導入教材である。

前半のフレーズの歌詞は、1番ではドの音、2番ではソの音の鍵盤の位置を探す「問い」になっていて、後半のフレーズではそれぞれの音を探すための「ヒント」が提示されるようになっていく。楽しみながら鍵盤楽器に親しむことができる教材である。

(2) ばす ばす はしる (宮中ちどり 作詞/作曲者不明)

バスに乗って車窓から眺める景色を歌った歌詞で、臨場感にあふれている。分散和音をモチーフとした跳躍のある旋律や軽快なテンポなどがあいまって、楽しい気分を感じながら歌うことができる。

教科書では、歌の後に楽器でクラクションの音を演奏するなど、楽しみながら楽器に親しむことができるアイデアが盛り込まれている。児童は、バスや乗用車、トラックなど思い思いに想像した乗り物のクラクションの音を作り、様々な音を出す中で音の高低や強弱、響きの違いを感じることができる教材である。

(3) みつばちのぼうけん (橋本祥路 作曲)

既習曲「ぶん ぶん ぶん」を器楽演奏に編曲した変奏曲形式の作品である。4回繰り返される旋律を演奏する楽器は、鍵盤ハーモニカなど回ごとに変わる。回ごとに変わるそれぞれの楽器の音色の違いに気付かせたい。それとともに、児童にとって特に身近な楽器である鍵盤ハーモニカの音に注目して「きれいな音」がどのような音かを聴かせ、演奏するときこのような音を目指そうという意欲につなげられる教材である。

(4) おとあそび

音遊びを通して鍵盤ハーモニカで旋律を演奏するための導入教材である。これまでの単音に「 || 」や「 || 」のリズム奏から、ここでは拍の流れに乗りながら3音で構成された簡単な音の演奏を経験し、まねっこ遊びやリレー奏を楽しみながら演奏に慣

れさせる。使用する音は、ド～ソの5音の範囲である。

(5) おちば (長井理佳 作詞/飯沼信義 作曲)

冬を迎える木々が落とした葉を、葉やお皿に見立てて、想像豊かに歌っている。楽曲の構成は単純で、旋律はすべてド～ソの5音の順次進行となっており、JJJJ|JJJ♪とJJJJ||のリズムだけで構成されている。絵譜を見ながら階名唱することに慣れさせ、鍵盤ハーモニカでの演奏につなげる。最終小節の音を入れ替える活動も取り上げ、言葉に合う音を選ぶ活動は音楽づくりの素地を養うことにもつながる。それとともに、同音が連続する旋律や跳躍音程の演奏に慣れ、鍵盤ハーモニカの演奏の幅を広げることができる教材である。

(6) ひのまる (文部省唱歌/高野辰之 作詞/岡野貞一 作曲)

第1学年の歌唱共通教材である。歌詞から旗がはためく様子に気付き、のびのびとした歌声に気をつけながら、なめらかな歌い方で歌おうという意識につなげる。また、6音の順次進行でつくられた旋律のため、階名唱の導入としても活用できる教材である。

5 題材の評価規準

	ア 音楽への関心 ・意欲・態度	イ 音楽的な感受や 表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材 の 規 評 準 価	鍵盤ハーモニカに興味をもって、進んで演奏したり、音遊びをしている。	楽曲の気分を感じ取って、音の出し方や歌い方を工夫している。	旋律を階名唱したり、鍵盤ハーモニカで演奏したりすることができる。	いろいろな楽器の音色に気を付けて聴くことができる。
学 習 活 動 に お け る 具 体 の 評 価 規 準	① 鍵盤ハーモニカに関心をもって、進んで演奏している。 ② リズムに合わせて、音遊びを楽しんでいる。	① 楽器の音色を生かして、音の出し方を工夫している。 ② 音の高低や強弱などを工夫して、クラクションを真似した音を演奏することができる。 ③ 思い浮かべた様子に合うように歌い方を工夫している。	① 拍の流れに乗って、旋律を階名唱することができる。 ② 拍の流れに乗って、旋律を演奏することができる。 ③ 音を選んで、旋律を演奏することができる。	① いろいろな楽器の音色の違いを感じて聴くことができる。

6 指導計画と評価（11時間扱い）

時	主な学習内容	具体 の 評価 規 準	各活動にお ける指導要 領との関連		共通事項		評価 方法 [支援 の方法]	
			表現	鑑賞	ア			イ
					(ア)	(イ)		
1	◎ 鍵盤ハーモニカの奏法を覚える。 ・ 楽器の構え方を知り、自由に音を出す。 ・ 無理のない息できれいな音を出せるように、吹き方を工夫する。	アー ①	(2) ア		音色		観察 [個別支援]	
2	◎ 鍵盤ハーモニカで、歌に続けてリズム奏をする。 ・ ドとソの音の高さや鍵盤の位置を確認して吹く。 ・ 「どんぐりさんのおうち」の歌に続けてドやソの音をリズム奏する。 ・ 息の強さやタンギングに気を付けて演奏する。	イー ①	(2) ウ		音色	四分音符	観察 演奏聴取 [個別支援]	
3	◎ 鍵盤ハーモニカで歌に続けてリズム奏や音楽づくりをする。 ・ 「ばすばす はしる」の歌の後に続くように、自由に車のクラクションの音楽づくりをする。	イー ②	(3) ア		音色 強弱	四分 休符	観察 演奏聴取 [アドバイス]	
4	◎ 様子を思い浮かべて音楽を聴く。 ・ 「みつばちの ぼうけん」という題名や挿絵からお話を想像しながら聴く。 ◎ いろいろな楽器の音色の違いを感じ取って聴く。 ・ 音色の違いに気を付けて聴き、どんな音が聞こえてきたか話し合う。	エー ①		(1) イウ	音色		発表 [挿絵・楽器の写真]	
5	◎ レ・ミ・ファを覚え、リズムに合わせてまねっこ遊びをする。 ・ リズムに合わせてド～ソの音を使って鍵盤ハーモニカでまねっこ遊びをする。	アー ②	(3) ア		旋律 リズム	反復	観察 演奏聴取 [アドバイス]	
6 (本時)	◎ リズムに合わせて音遊びをする。 ・ リズムに合わせてド～ソの音を使って鍵盤ハーモニカで音遊びをする。	アー ②	(3) ア		旋律 リズム	問い と 答え	観察 演奏聴取 [アドバイス]	

7	◎ 絵譜を見ながら階名唱する。 ・ 絵譜を見ながら「おちば」の旋律を階名唱する。	ウー ①	(1) ア	音色		演奏聴取 〔拡大譜、 個別支援〕
8	◎ 旋律を楽器で演奏することに慣れる。 ・ フレーズのまとまりごとに、鍵盤ハーモニカで演奏する。	ウー ②	(2) ア	音色		演奏聴取 〔拡大譜 個別支援〕
9	◎ 曲の終わりを入れ替えて演奏する。 ・ 終わりの1小節気に入った音を選んで合わせて、演奏したり聴き合ったりする。	ウー ③	(2) ウ	旋律		演奏聴取 〔拡大譜、 個別支援〕
10	◎ 曲の感じをつかむ。 ・ 歌声に気を付け、様子を思い浮かべながら「おちば」歌う。	イー ③	(1) イ	音色		発表 演奏聴取 〔写真や 実物〕
11	◎ 曲の感じをつかむ。 ・ 歌声に気を付け、様子を思い浮かべながら「ひのまる」を歌う。	イー ③	(1) イ	音色		発表 演奏聴取 〔写真〕

《領域と指導内容との関連》

◎重点指導事項 ○指導事項

時	歌唱	器楽	音楽づくり	鑑賞	まねっこ遊び
1		◎			○
2	○	◎			○
3	○	○	◎		○
4				◎	
5		○	◎		○
6		○	◎		○
7	◎				
8		◎			○
9		◎			○
10	◎				
11	◎				

7 本時の指導 (本時 6 / 11)

(1) 本時の目標

リズムに合わせてド～ソの5音を使って音遊びを楽しむことができる。

(2) 研究の視点と学年部の視点との関連

① 指導形態の工夫

【研究の視点2】に関して

低学年部 (2) 「身の回りの音の面白さに気付き、思いをもって簡単な音楽を作るための指導の工夫」

- 「まねっこ遊び」などのスモールステップを取り入れることによって、本時で行う音遊びにできるだけスムーズに入れるようにする。
- 音遊びをする際に、ワークシートを使って5音の団子から1音ずつ選んで色を塗らせながら音を作らせることで、「こういう音にしてみよう」「こんな風につなげてみよう」という思いや意欲をもたせて音遊びに取り組めるようにする。
- 音を考えたり鍵盤ハーモニカの演奏準備をしたりするために、4拍の間をとってタイミングを合わせてから音をつなげさせるようにする。また、リズムボックスを用いて、リズムに乗って音遊びができるようにする。

② 学習形態の工夫

【研究の視点2】に関して

低学年部 (2) 「身の回りの音の面白さに気付き、思いをもって簡単な音楽を作るための指導の工夫」

- 4人グループで音遊びをすることで、友達の音を聴いたり、音をつなげていたりする中で即興的に生まれる音の面白さやつなげる楽しさ、鍵盤ハーモニカを演奏する楽しさに気付かせる。

(3) 学習活動の展開と評価

学習活動・内容 ☆予想される児童の反応	◇指導者のかかわり ♪評価
<p>1 鍵盤ハーモニカの奏法やド～ソの5音の場所を確認する。</p> <p>・ 鍵盤ハーモニカの基本的な奏法を確認する。</p> <p>「おはなしゆびさん」(指の体操)</p> <p>・ ド～ソの5音の場所やタンギングを確認しながら演奏する。</p> <p>「どんぐりさんのおうち」</p>	<p>◇ 息の入れ方やタンギングなどを確認させる。</p> <p>◇ 鍵盤ハーモニカの図や指に番号をつけた図を掲示して、視覚的に確認させる。</p>
<p>2 言葉や旋律を用いてリレー遊びやまねっこ遊びをする。</p> <p>・ 言葉のリレー (トマト→メロン→りんご……)</p> <p>・ 階名唱→鍵盤ハーモニカでの演奏</p>	<p>◇ リズムボックスを用いて児童がリズムに乗ってリレー遊びやまねっこ遊びができるようにする。</p> <p>◇ タンタンタンウンのリズムに合う言葉や旋律を用いて、リズムを意識させるようにする。</p> <p>◇ 言葉のリレーをするときは、指導者が指し示した言葉を児童が順番に言いながらリレーをし、本時の活動につなげる。また、自分の番が来たら立って示された言葉を言わせる。</p> <p>◇ 号車や列や班などいろいろなパターン</p>

でリレーを行い、友達と楽しく活動する雰囲気を作る。

- ◇ 言葉のリレーをするときは、手で拍子を取りながら行わせる。

3 本時の課題を知る。

タンタンタンウンのリズムによって ドレミでおとあそびをしよう

班で音遊びをする。

①まねっこ遊びをする。

☆ 隣の友達の真似がちゃんとできたよ。

☆ こんな音にしてみよう。真似してもらえるかな。

②リレー遊び（前の人の音を真似しないでつなげる）をする。

☆ ○○ちゃんはどんな音にするのかな。

☆ 僕は、ドレミにしてみよう。

☆ 何回もつなげられたよ。

③4人グループで自由に音遊びをする。

☆ まねっこでつなげてみよう。

☆ ドドミにしてみよう。

- ◇ 前時で行ったまねっこ遊びを取り入れ、次の活動に意欲的に取り組めるようにする。

- ◇ リズムボックスを用いて、リズムに合わせてまねっこ遊びやリレー遊びをすることを意識させる。また、テンポを速くしたり、リズム伴奏を変えたりし、意欲的に音遊びをさせる。

- ◇ ②リレー遊びを行う際、自分で音を選ぶときに、5音を団子にしたワークシートを使って音づくりをさせ、それを班でつなげさせる。慣れてきたら選んだ音を変えさせて、つなげさせていく。

- ◇ 音を考えたり鍵盤ハーモニカの演奏準備をしたりするために、4拍の間をとってタイミングを合わせてから音をつなげさせる。自由に音遊びができるようになったら、4拍の間を無くして音をつなげさせる。

アー② 観察、演奏聴取

♪リズムに合わせて音遊びを楽しむことができる。

【Aと判断する姿】

友達の音に耳を傾けるなどして、リズムに合わせて音をつなげることを楽しんでいる。

【Cへの手立て】

はじめの音を示したり、音づくりのワークシート見ながら演奏させたりして音をつなげさせる。

5 本時の学習をまとめる。

- 音をつなげて楽しんでいたグループを紹介する。

☆ 何回もつなげられてすごいな。

☆ 音の高さが行ったり来たりしていておもしろいな。

☆ 僕と同じ音が入っている。

- 紹介された音をつなげて、全員で演奏したり、全員で即興的に作った音をつなげたりした後、感想を聞く。

☆ つなげると曲みたいになるな。

- ◇ 何回も音をつなげて楽しんでいたり、音の動きに注目してつなげていたりしたグループを紹介し、音をつなげて即興的に生まれる音の面白さや鍵盤ハーモニカを演奏する楽しさに気付かせ、次時につなげる。

- ◇ 紹介された音を絵譜に表し、視覚的に音の動きがわかるようにする。

- ◇ 紹介された音を全員で演奏させることにより、音をつなげると1つの音楽（曲）になることに気付かせる。また、全員で即興的に作った音をつなげ、最

☆ 音を作ってつなげるって楽しいな。

・ 次時の予告をする。

☆ 次は、もっと長い曲を吹くんだな。

☆ 楽しみだな。

後の音として「ドドド（ウン）」を演奏して終わらせることで終止感を感じながら、音遊びの充実感を味わわせる。

(4) 板書計画

〔ホワイトボード〕

タンタンタンウンのリズムにのって、ドレミでおとあそびをしよう

まねっこあそび

リレーあそび（まえの人のおとをまね
しないでつなげる）

鍵盤の図

〔前面黑板〕

児童が作った音

児童が作った音